カンボジアの今をお届けする

2023.11

NyoNyum 20号

By JICA-VOLUNTEER DAISAKU TAKAGI

2023年の活動の振り返り・番外編～近隣校での活動を紹介

配属先•スバイリエン高校での活動に軸足を置きながら、「体育•スポーツの楽しさをより多くの子どもたちに広めたい」との思いで、8月頃から、近隣の学校で、体育の授業に関わる協力•支援を行ってきました。2月頃から、学校に突撃訪問し、校長先生、先生方とのネットワークを構築、また体育の授業の実態や要望を把握するなどして準備を進めていきました。時間的、体力的な課題もあり、満足のいく活動はできていませんが、一部活動を紹介します。

訪問先学校紹介

フンセンチェイク高校（市内）

《生徒数》中学１年生～高校３年生、495 名

《体育の実態》年間授業計画が策定されているものの、全ての学年で、年間を通して、エアロビの授業のみを実施。体育教員３名のうち２名は、体育の教科化に伴い、学校事情で他教科からの変更を余儀なくされた 50 代後半の教員であり、指導に困難を抱えていた。

《活動内容》8 月から、週に１，２度訪問し、複数の学年で、エアロビの新たなステップを指導。スモールステップでの指導と生徒への積極的な声かけを心がけ、授業を進めている。

《成果》2 名の先生が、生徒と一緒になって新しいステップを習得。またステップの動画を撮影し、この動画も活用しながら、他クラスでも自ら指導を試みるようになった。生徒も好奇心を持って取り組み、ステップの習得度合いも上々であった。

《今後の展望》エアロビ(ダンス)以外の種目を一つでも実施できないかを検討。

左は、楽しそうに取り組む生徒たちを見て、校長先生(一番右)も授業に参加。右は、50 代の先生(一番右)が、新しいステップを指導する様子。

トゥールチュレッ小学校（バサック村）

《生徒数》幼稚園、小学校１～６年生、260 名

《体育の実態》指導できる教員がいないため、体育の授業は行っていない。また農村地域にある学校のためボールは容易に手に入らず、まちの子どもたちに比べてボール遊びの経験が少ない。

《活動内容》バレーボールとサッカーボールを寄贈。遠方のため訪問は月に１度。休み時間に、子どもたちとバレーやサッカーをして交流をはかる。

《成果》校長先生や先生方が、ボールで元気よく遊ぶ子どもたちの様子を見て大変喜び、訪問の際には、授業時間の一部を子どもたちとの交流の時間にあててくれるようになった。

《今後の展望》「先生方に体育の経験がないし、体育を指導できる教員がいないので、体育の導入は難しい」という校長。先生方が「これならできそう。取り入れてみよう」と思ってもらえるような（体育の授業につながる）レクリエーションを計画し、実践できないか思案中。

左は、ボールを寄贈した際の先生方との記念撮影。右は、校舎正門で、お見送りをしてくれる子どもたち。

近隣校での活動を通して･･･

近隣校の先生方とお会いすると、必ずと言っていいほど、これまでの日本の支援に対する感謝の言葉と共に、協力隊ボランティアへの期待が寄せられます。また農村地域の学校を訪れると、都市部の学校との教育環境の格差を目の当たりにし、「支援が行き届いてない場所でこそ活動をしたい」という想いに駆られます。しかし、その期待や想いとは裏腹に、近隣校へ訪問できる時間は限られており、もどかしい思いをしています。それでも、限られた時間の中で、今の自分に何ができるか、どのような関わり方が持続可能かつ効果的か、などを自問自答しながら活動を進めています。何より訪問を待ってくれている子どもたちの“笑顔”はたまりません!!

配属先での１年締めくくりの大宴会！！！

10 月 21 日(土)、1 年間の労をねぎらっての大宴会が催されました。総勢約 170 名の教職員が校庭に集い、時間を忘れて、飲み食べ、そして歌い踊り、記念撮影をし、とても楽しいひと時を過ごしました。

午前 10 時から宴会がスタート。牛の丸焼きなど食べきれない料理と大量のビールが並び、時に友情の証のポーズで一気飲み 宴会の準備や後片付けの手伝いに来ていた生徒たちとも交流（先生公認で、お酒を飲んでいました ）。宴は日が暮れても続き、最終メンバーの解散は 21 時頃だったとか (僕は 16 時頃こっそりと帰宅)。賛否両論あるとは思いますが、これがカンボジア流の宴会です!!

実は、昨年はこの宴会に声をかけてもらうことができず、後日談としてその存在を知り、「学校の一員として認められていないのだろうか」と少し寂しさを感じていました

任国外旅行で、タイ旅行へ！

協力隊員は、任期中に、**『任国外旅行制度』**(＊)を利用し、任国外に旅行をすることが認められています。例えば、世界各地で活躍する同期隊員(日本の訓練所で語学研修などの訓練を共にした仲間)がいる国を訪れたり、近隣諸国を一人旅したり、家族に会いにまたは通院等で日本へ帰ったりとしています。

昨年は、この制度を利用し、学校の長期休暇中に、ホームステイ先の家族を連れて、日本へ一次帰国をしました(10号で紹介)。今年は、残された僅かな任期をカンボジアで過ごしていたいとの思いに駆られながらも、隣国タイの首都バンコクを訪れました。

(＊)『任国外旅行制度』とは？

配属先での有給休暇の日数内で JICA の定める日数を限度として、私費による任国外旅行が認められおり、この範囲内で日本へ一時帰国することもできます。安全上の観点から、一部制限されることもあります。

(「JICA 海外協力隊 HP」を参照)

写真は、左から、世界文化遺産の「アユタヤ遺跡」、エレファント村での象乗り体験、エメラルドの仏塔と神秘的な天井が美しい「ワット・パークナム」、バンコク最古の寺院で、全長 46m、高さ 15mの金箔に覆われた大仏が有名な「ワット・ポー」。その他にも、水上バスで眺める街並みや水上マーケット、バラエティ豊富な雑貨や食欲をそそる美味しいタイ料理の数々が楽しめるナイトマーケットやショッピングモールと、首都バンコクだけでも、多くの見どころがありました。

タイで12年以上働く教え子との再会を果たしました！バンコクを案内してもらいながら、懐かしい話、近況報告、そして未来への想いを語り合うことができ、とても幸せな時間でした。

豆知識

タイは、国際観光客到着数(コロナ禍前の 2018 年の数値)が世界 9 位(約 3,830 万人/年)で、世界屈指の観光立国といわれています。上位５か国及び日本の国際観光客到着数は右図の通りで、われらがカンボジアは約 620 万人/年、タイの約 1/6 となっています。

近年、カンボジアは、観光業を経済の 4 本柱の 1 つに位置付け、外国人観光客の更なる増加を目指しています。今年、世界遺産「アンコールワット」があるシェムリアップに新空港が設置され、また観光拠点となる地域に新たに 2 つの新空港の建設が進められています。「アンコールワットだけがある国」と認識されてしまっているカンボジアの観光業が、今後どのように成長していくのか、とても気になるところです。

国際観光客到着数(2018)

1 位	フランス	(約 8,940 万人/年)
2 位	スペイン	(約 8,280 万人/年)
3 位	アメリカ	(約 7,960 万人/年)
4 位	中　　国	(約 6,290 万人/年)
5 位	イタリア	(約 6,210 万人/年)
11 位	日　　本	(約 3,120 万人/年)

(「Bank of Ayudhya PCL. 調査資料」を参照)